

本では学ぶことのできない経験

2007年度卒業(会計専門職専攻) 井原文彦



今回インターンシップに参加した目的は、本で読んだ知識で作り上げた私がイメージする監査法人と実際の監査法人とのギャップを解消するためです。監査法人の業務というのは、その中心が会計監査であり、接する機会も大企業の経理部を中心としたごくわずかの人々に限られており、一般的にイメージが非常に湧きにくいものです。それを解消するためのいい機会だと思い、応募しました。

研修は会計士試験の直後の9月前半に、大阪で1週間ありました。今回受け入れてくださったあずさ監査法人での研修内容は、監査法人の業務の説明、具体的な監査手続きについてのロールプレイを交えた説明、各事業部の懇談会でした。個人的に印象に残っているのは、ロールプレイを交えた監査手続きの説明です。自分自身が会計士という設定のもと、研修担当の方が被監査会社の工場長や経理部長役に扮し、確認・実査・立会を行うものでした。ロールプレイとはいえ、とまどうことばかりで、ただそれぞれの定義について知識があるだけでは、何の役にも立たないということを実感したと同時に監査業務の具体的なイメージをつかむことができ、非常に有意義なものだったと思います。

ただ文字の羅列を暗記するのでは本当の理解とはいえません。やはり、このような機会を大切に、現場で実際に従事していらっしゃる方々と接することが、本当の理解につながる一番の方法だということを実感しました。

インターンシップに参加して

2007年度卒業(会計専門職専攻) 三田雅敏



私は9月3日から7日までの5日間、あずさ監査法人で行われたインターンシップ研修に参加しました。今回は秘密保持の関係上、被監査会社へ行くことはできず、取り上げられたテーマは基本的なものが中心でしたが、その内容は非常に濃いものでした。その中で最も印象深いのが散々な結果に終わった立会のロールプレイです。事前にマニュアルを熟読していましたが、いざ始めてみると、会社側から提出された資料の多さに混乱して思考が停止してしまいました。これはもちろん緊張のせいもあったのですが、それ以上に私の目的意識の無さが原因だったと思います。あのロールプレイでの苦い経験は自分の弱点に気付く良いきっかけとなりました。

また、正規のプログラム以外でも、懇談会や歓迎会などのおかげで多くの方と話をする機会に恵まれ貴重な経験をすることができました。その中でも入社1年目の方と話をした事が一番印象に残っています。ついこの間まで私と同じ受験生であった方がすでに遙か先に行く存在となっていたことを痛感し、惨めな気分にもなりましたが、それ以上に追いつきたい目標ができたことにより勉強に対する意欲が高まったと思います。この思いを忘れずに来年の合格を目指して今後はより一層精進していく所存です。